

問 郷土史、防災の学習は

答 総合的学習を
活用して実施



せき 関 きよ たか 清 貴 議員
(政 和 会)



真剣なまなざしで農業体験に励む児童たち

問 小、中学校で郷土の産業を体験する学習、郷土史の学習、防災教育を行っている

か。また、「鯨と海の科学館」を活用した学習は。
佐々木教育長 学校では地域学校協働活動として、総合的な学習の時間を活用し実施している。3年度小学校で漁業に関する学習を26回、防災学習1回、郷土史学習2回、郷土資料を利用した学習を1回開催。中学校では漁業に関する学習4回、

様々な業種の方の講話を聞く学習を1回。各校、各学年で震災学習を年複数回、避難訓練を年4、5回実施。鯨と海の科学館を利用した学習は、施設見学のほか、海の生き物に関する学習を実施している。

問 教育委員会の主導で、郷土理解を重点的に進めることはできないか。

教育長 学校の教育課程は学校長が決めるが、本町の学校では郷土理解に力を入れていると認識している。また、教育委員会では、リーフレットを作成したり、コーディネートターを派遣し学校と地域を結ぶことも行っている。

教育長 現時点では給食費の値上げは考えていない。
問 様々な財源を確保し、児童・生徒の栄養が不足することのない給食の提供を。
芳賀教育次長 財源をしっかりと確保し、バランスが保たれた安定的な給食を提供する。

問 北インターを活用した企業誘致は
答 県と連携して誘致活動を進める

問 三陸道路のアクセスの良さを利用し、優遇制度を拡充し、企業誘致活動を進めては。

町長 北インターのフル化に伴い当地域への波及効果が期待されることから、農業者や関係団体等の意向を確認のうえ検討したい。

佐藤町長 近隣の支援内容などを研究し、県と連携して誘致活動を進めたい。
問 豊間根地区の特性を活かし、農産物の集荷、加工施設等の整備は。

- ◆観光として潮干狩りを考えているか
◆豊間根地区に防災基地を考えては
◆災害公営住宅の管理運営の一本化は
◆高齢者の見守りの体制は
◆新型コロナウイルスの情報の伝達は

その他の質問